

決算審査特別委員会は議員七人で構成し、九月十三日に開きました。町長をはじめ関係職員の出席を求め、各会計を慎重に審査した結果、いずれも全会一致で認定しました。

議会

議長交際費の不用額が多いのはなぜか。  
A 陳情で東京へ行くことがなくなったため。

企画

Q 商業振興事業の内容は。  
A 中小企業融資の促進事業であり、三十六件の利用があった。

総務

Q 普通財産売却事業の費用四十三万三千円の内訳は。  
A 港町公園にかかる不動産鑑定業務である。  
Q 観光振興事業で三万円の支出があるが、これは何か。  
A 広島県の観光連盟に対する負担金である。

総務

Q 太陽光発電への補助は何件か。  
A 平成二十一年度が五件、平成二十二年度が三十件で、前年に比べ六倍増加している。  
Q 防犯パトロール事業費が減っているが、人員の減と二年契約としたため。



気をつけてください

Q 循環バスの利用者が減っているが、夏の暑さなどで行事の中止があったことが影響している。  
Q 消費生活相談事業の件数や内容は。  
A 四十三件の相談があり、SF商法(※)の相談が多かった。

※SF商法とは、安売りや講習会を名目に人を集め、締め切った会場で日用品を無料か無料同然で配り、「もらわねば損」という一種の催眠状態を作り出し、消費者が冷静な判断を失った状態で、最後に高額な商品を買わせようとする手口である。



売却しました



連携を図った水防訓練

Q 消防団の出動回数は。  
A 訓練を含み消防で百回、千六百二十九名、水防で五回、九十二名だった。  
Q 固定資産の状況については、毎年度すべての地域をまわって確認しているのか。  
A 土地と家屋については毎年度現地調査をしている。

福祉保険

Q 生活保護の件数は。  
A 平成二十一年度末現在で、百六十三世帯、二百七十八人。  
Q 上下水道減免事業の内容は前年に比べてどうか。  
A 上水道で二千四百四十五世帯、下水道で二千六十七世帯だった。前年に比べ増加している。

国民健康保険

Q 不妊治療の助成効果はどうか。  
A 十五名の方が利用され、五名が妊娠された。  
Q 特定健診の受信者数は。  
A 対象者四千六百六十八人のうち、千三百九十一人の方が受診した。  
Q レセプト点検(※)の結果は。  
A 月平均で、二十万円から五十万円程度の過誤を指摘している。  
※医師が患者を診療した際の対価としての医療費の明細書(診療報酬明細書)の点検のこと。  
Q 緊急雇用対策基金事業補助金は、どのように使ったのか。  
A 保健師を一名雇用了。これに伴う人件費や机、椅子などのレンタル料などに使った。

建設

Q 海田市駅自転車等駐車場の利用台数は何台だったか。  
A 年間延べ台数で、自転車が二十万七千三百四十四台で、バイクが二万九千二百六十台だった。

教育

Q 駐輪場付近で自転車やバイクと歩行者との接触事故などはなかったか。  
A 事故の報告は受けていない。  
Q 適応指導教室に通っている、学校に復帰したのは何人か。  
A 二名が復帰している。



危険!